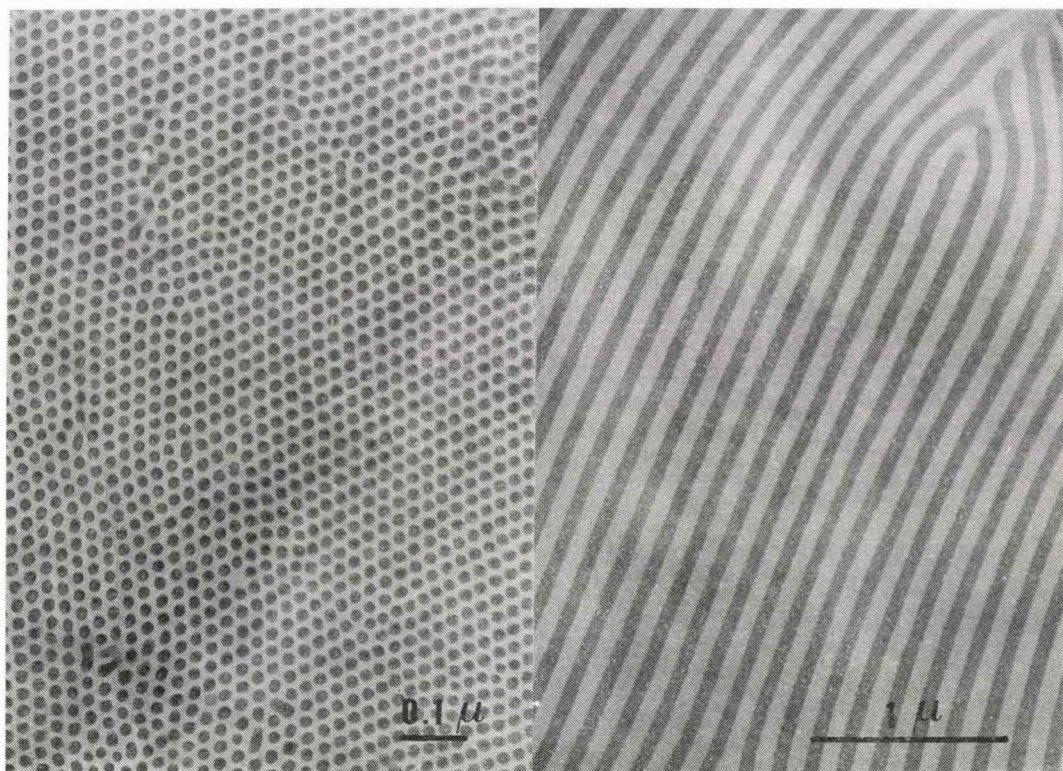


京大広報

No. 241

京都大学広報委員会



スチレン-イソプレンブロック共重合体のマイクロ相分離構造の電子顕微鏡

写真（オスミウム染色）—関連記事本文 279 ページ—

- （左）棒状のポリイソプレン相（黒い部分）がポリスチレンマトリックス中に六方最密充填した構造
- （右）ポリスチレン相とポリイソプレン相の交互層状構造

目 次

京都大学市民講座の開催.....	278	<随想>	
附属図書館講演会.....	278	回 顧	名誉教授 田伏敬三..... 280
医学部・総合解剖センターの開所式.....	278	<保健コーナー>	
		貧 血.....	281
<紹介>		計 報.....	282
工学部・高分子化学教室.....	279	日 誌.....	282

〈大学の動き〉

京都大学市民講座の開催

本学では、来る10月23日、30日、11月6日の各土曜日に広く一般市民を対象とする「京都大学市民講座」を開講する。

本講座は、財団法人京大会館楽友会の協力の下に、昭和54年以来毎年開かれているもので、今回

は第4回目になる。昨年度に引き続き「人間・自然・文化」を共通テーマに、総合大学の特色を生かして学問の諸領域にわたる講義が行なわれる。

日程は次のとおりで、講義時間は各日とも午後1時から同4時30分までである。会場は農学部W100講義室である。

なお、受講定員は330名で、9月16日に申込みを締切った。

日 程	講 義	講 師
第1日 10月23日	開 講 あ い さ つ	総 長 沢 田 敏 男
	現実を新しく —科学の方法と知識の関係について—	教 養 部 教 授 井 上 健
	中央アジアの遺跡	文 学 部 教 授 樋 口 隆 康
第2日 10月30日	食用油脂をめぐる諸問題	食糧科学研究所 教授 松 下 雪 郎
	緊張緩和政策について	法 学 部 教 授 高 坂 正 堯
第3日 11月6日	「小乗」の世界 —東南アジアの仏教—	東南アジア研究センター教授 石 井 米 雄
	老 化 を 考 え る	医 学 部 教 授 亀 山 正 邦
	閉 講 あ い さ つ	法 学 部 教 授 道 田 信 一 郎

附属図書館講演会

附属図書館では、10月6日（水）午後1時30分から5時まで、基礎物理学研究所大講義室において、講演会を開催した。講演題目と講師は次のとおりであった。

日本の産業構造と将来

——最近の白書等との関連で——

経済研究所教授 馬場正雄

ドキュメンテーションと電算機

工学部教授 長尾 眞

(附属図書館)

〈部局の動き〉

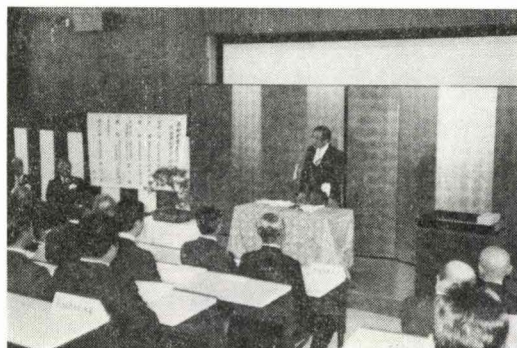
医学部・総合解剖センター開所式

このたび医学部に附属総合解剖センター（詳細は、本広報No.240参照）が完成し、10月9日（土）同センターにおいて、沢田敏男総長、文部省より川村恒明学術国際局学術課長並びに高野文雄管理局教育施設部計画課長、学内外から多数の来賓の出席のもとに開所記念式典が行なわれた。

式典は、午前10時10分に始まり、伊藤洋平医学部長の式辞に続いて、沢田総長の挨拶、翠川 修同センター長の挨拶及び経過報告の後、川村学術課長の祝詞があり、午前10時45分に終了した。

なお、引き続き、同センターの全室が公開され、列席者に披露された。

(医学部)



〈紹介〉

工学部・高分子化学教室

高分子、すなわち、分子量にして1万以上もある巨大な分子の存在が論じられはじめたのは、もう120年以上も前のことになる。建築学の学生であったケクレ (F. A. Kekulé) は、ギーセン大学 (Giessen) でリービヒ (J. F. von Liebig) の化学の名講義を聴いて、やがて化学を専攻するようになった。1858年、29歳のとき彼は有機化合物の構造についての画期的な論文を書いた。それは、炭素原子は4価であり、炭素原子どうし互いに結合することができるというもので、彼の考えによると、原子が集まって分子を形作るとき、原子は一つずつ鎖を作るように隣の原子と連結して、どんな長さの分子もできることになる。彼は、その頃、グラム (T. Graham) が研究していた溶液中での拡散速度の極めて遅いコロイド粒子は、このようにして多数の原子が鎖状にあるいは網目状に結合して形成された巨大な分子であり、それらの巨大分子の構造は生命に直接関係した役割を果していると推論した。生体高分子の機能を中心とした今日の分子生物学の展開までも予見した説である。

自然科学の発展は、話の筋のみをたどると、随分まわり道をしていたように見えることがあるが、それまでの分子の概念を越えた巨大分子の存在を実証して、高分子の科学の基礎が確立されるまでには、その後70年以上の研究と討論の積み重ねが必要であった。1920年代になって、シュタウディング (H. Staudinger) は、ケクレの考えたような巨大分子の存在を実証し、マイヤー (K. H. Meyer) やマーク (H. Mark) らの構造研究、カロザーズ (W. H. Carothers) の合成研究等この分野の活気に満ちた研究が実り、1940年代に入って、ようやく高分子の学問領域の土台ができあがってきた。

一方、このような高分子

化学の発展は、繊維工業にとっても大きな転機をもたらすものであった。高分子合成の一つの成果として、鋼鉄のように強く、くもの糸のように細いというナイロンの出現 (1938年) は、合成繊維の時代のはじまりを示していた。

このような中で、かねてより工業化学教室で進められていた繊維化学の研究を基盤として、高分子化学教室の前身である繊維化学教室が創設された。1941年のことである。最初から、新しい高分子化学の勃興の中で、それを基礎とした繊維化学と、より広い分野を含む高分子化学の展開を目標とした教育研究の体制が作られた。繊維化学教室の20年、我が国の人造繊維や合成繊維、またゴム・プラスチックの開発基礎研究の推進に貢献すると共に、高分子の合成・構造・物性の基礎分野の研究に成果を挙げ、国際的にも一つの学風を形成するまでに熟成した。そして、1961年に、高分子化学教室へと改組・拡充されて現在に至っている。

教室創設以来、この40年間は高分子化学という学問分野の成長期であった。高分子合成あるいは高分子反応の機構、高分子構造の解析、物性特性解析に関する研究の成果は、より積極的に高分子設計と高分子機能の発現へと展開している。そして、それらは、材料科学や分子生物学の発展に深く関連し、また、より基礎的な分子科学の領域に組み込まれつつある。教室では、このような教育・研究の将来を指向して、高分子の形・姿・振舞いともいえる、構造・運動・物性の高分子特性解析システムを構成している。それには、時間分割



高分子特性解析システムの一部

な人は沢山食べても結構です。

ただ、肉類や魚貝類は高価になることは仕方ありません。本年3月の物価から単純に計算しますと、鉄10mgを摂取するのに牛肉で1,250～2,800円、牛レバーで1,200円、カツオで960円、ウナギで6,600円かかります。経口鉄剤ですと3円以下ですみます。野菜の中ではホーレン草が良いと言われていています。なるほど鉄の含量は多いの

ですが、吸収が悪くて言われるほどの効果はないようです。

予防にはバランスのとれた食事を規則正しく摂ることが大切です。もし貧血があればその原因を早く診断してもらい、正しい治療を受けるようにしたいものです。

(保健診療所 森下玲児)

訃 報

浅沼 榮作 (医学部附属病院事務官)

9月18日逝去, 63歳。昭和35年医学部附属病院管理課勤務, 同49年医学部附属病院総務課に配置換。昭和56年本学永年勤続者表彰 (20年勤続) を受ける。

伊吹 武彦 (本学名誉教授)

10月12日逝去, 81歳。東京帝国大学文学部卒。昭和24年本学教養部教授就任, 同25年文学部教授, 同39年退官。昭和46年勲三等旭日中綬章受章。専門はフランス語学・フランス文学。

日 誌

(1982年9月1日～9月30日)

- | | | | |
|------|---|-----|---|
| 9月2日 | ドイツ連邦共和国 Frankfurt 大学 H. Kelm 学長来学, 総長事務代理および関係教官と懇談 | 14日 | 国際交流会館委員会 |
| 3日 | 同和問題委員会 | 16日 | 北白川スポーツ会館開所式 |
| ク | ドイツ連邦共和国西ドイツ学長会議 George Turner 議長 (Hohenheim 大学長) 外1名来学, 総長事務代理および関係教官と懇談 | 17日 | 環境保全委員会 |
| 10日 | 体育指導センター管理運営委員会 | 22日 | 国際交流委員会 |
| ク | インドネシア共和国 Daed Joesoef 教育文化大臣来学, 総長および関係教官と懇談 (11日まで) | ク | 国際交流会館委員会 |
| | | ク | 安全委員会 |
| | | 28日 | 評議会 |
| | | 29日 | 学位授与式 |
| | | ク | カナダ Simon Fraser 大学 K. George Pedersen 学長来学, 総長および関係教官と懇談 |